

有害獣の 被害対策について



君津市

現在、市内ではイノシシなどの獣による被害や生息地の分布が拡大しています。今や獣害は、農業被害だけではなく**人的被害**の危険性も高まり、農業者だけの問題ではなくなっています。そこで、獣の生態を知り、被害の軽減・防止をするためにはどうするか、一般的な生態や対策の一部を紹介していきます。

イノシシってどんな生き物？

食性

イノシシは雑食性の動物で、イモ類、草本類やその根っこなどの植物質に加え、ミミズやカエルなどの動物質も食べます。柿や栗、ドングリなども地面に落ちればイノシシのエサとなるため、それらを放置すると、イノシシを呼び寄せる要因の一つになってしまうことがあります。もし住宅周辺の柿や栗などをイノシシが食べに来ているようであれば、こまめに落ちた実を片付けたり、不要な木であれば伐採したりするなどして、イノシシを寄せ付けないようにしましょう。



▲ イノシシのエサ場になっている栗林



▲ イノシシに噛みつぶされた栗

行動・性質

イノシシは野生動物なので、基本的には警戒心が強い性質です。しかし学習能力も高く、美味しいものが食べられる場所、安心して移動できる通り道などをすぐに学習していきます。学習が進んだイノシシは人との距離が近くなったり、明るい時間帯に頻繁に出没するようになり、思わぬ事故につながる危険性があります。

**強い警戒心
(人が怖い)**

**美味しいエサや
安心して移動できる通り道の学習**

**人慣れ
明るい時間帯の出没**

イノシシと出会わないようにするには？

全国でイノシシに襲われてけがをするという事故が起っています。まずはイノシシに出会わないように、対策をすることが大切です。一般的な対策方法を紹介します。

エサ場をなくす

イノシシは多くの場合、エサを求めて行動するうちに人間の生活エリアに入り込んで来てしまいます。地面に落ちた柿や栗、ドングリなどをこまめに片づける、生ごみは決められた日時に出す、といったように、人間の生活エリアをイノシシにとって魅力のないものにしましょう。

イノシシの利用頻度が高い藪の近くでは車との交通事故に発展する可能性も...▶



隠れ家・通り道をなくす

イノシシは本来臆病な性格のため、自分の体が隠れるような草地を好んで利用します。耕作放棄地のような背の高い草地はイノシシにとって格好の隠れ家・通り道だけでなく、出産の場にもなります。イノシシが利用している草地があれば、地域で協力して草刈りなどを行いましょう。



◀ 柵で囲ってイノシシを入らせない！

防護柵で守る

イノシシに入られないように、防護柵で守ることも有効な手段です。イノシシ用の柵としては、電気柵、ワイヤーメッシュ柵、金網柵などがあります。イノシシは鼻の力が強く、隙間が空いているとそこからこじ開けて入ってくることもあるので、設置の際は隙間のないようにしましょう。

人間の存在を知らせる

イノシシは明け方や夕方の薄暗い時間帯にも活発に行動します。そのような時間帯にイノシシの出没情報があるような場所を歩く際は、鈴やラジオを身に付けるなどして、人間の気配をイノシシに伝えましょう。出会いがしらの接触はイノシシが驚いて攻撃してくることがあり、とても危険です。

イノシシと出会ってしまったらどうする？

落ち着いて以下の行動を！

静かにイノシシと**距離をとる**

物陰や車の中、イノシシより高い場所に移動して
イノシシの**視界から外れる**

イノシシの出没情報を地域や学校等で**共有する**
(必要に応じて市や警察に通報)

こんな行動は危険！

大声を出したり、物を投げたりしない

むやみに近づいたり、追いかけてまわしたりしない

イノシシは身の危険を感じたり興奮したりすると、突進したり、かみついてきたりすることもあり非常に危険です。イノシシの噛む力は強く、指をかみちぎられる事故も発生しています。また、オスのイノシシには牙があり、ちょうど大人の太ももくらいの高さです。この牙で太い血管を傷付けられると、最悪の場合失血死してしまうこともあります。興奮しているイノシシは、「背中を逆立てる」、「歯をカチカチと打ち鳴らす」、「前足で地面をひっかく」などの特徴があります。

エサを与えない

こども（ウリ坊）がかわいいからといって、エサを与えるはいけません。人間の食べ物の味を覚えたイノシシは、生ごみをあさったり、人間の生活エリアに執着するようになります。深刻になってくると、イノシシから人間に近づき、手に持っている食べ物を奪おうとする事例も起こっています。



▲生後3か月くらいまでウリ模様がある

犬の散歩も要注意

犬の散歩中にイノシシに襲われる事故が複数発生しています（千葉県南部でも発生）。人間や犬がおとなしくしていても、イノシシが犬に向かって攻撃をしてくることがあります。犬の散歩をする際は、イノシシの出没情報が多い場所や時間帯はなるべく避けたり、鈴などで人間の気配をイノシシに伝えましょう。

サルってどんな生き物？

食性と被害

サルは雑食性で、自然にある柿や栗の他、人間の作るトウモロコシやカボチャ、ナスやキュウリなどの農作物も食べます。サルは群れで行動することが多いため、1頭の食べる量は少なくても、群れで田畑を襲撃されると被害が甚大になることもあります。

このような農作物被害に加え、一部のサルは人慣れが進行し、家屋侵入や人への威嚇などの生活・人的被害も深刻化しています。

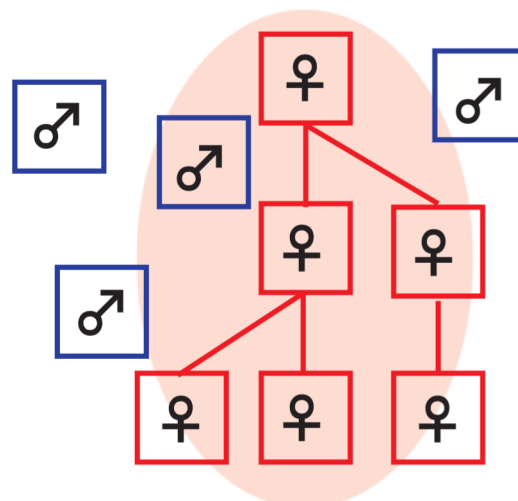


▲ サルの被害にあった畑のナス

サルの群れ

野生のサルの群れは母系社会で、血縁関係のあるメスを中心に構成されています。メスは基本的に産まれた群れで一生を過ごしますが、オスは4～5才になると群れを出て、別の群れを求めて旅立ちます（離れザル）。

群れは一定の行動範囲を縄張りとして利用しています。縄張りは群れの大きさや周辺のエサ環境、他の群れとの関係性により群れごとに異なります。



追払いによる対策

サルが出没した際に、ロケット花火などで追払いをすることも効果的です。

追払いのポイント

飛び道具は人間の姿を見せて飛ばす

サルにとって怖いのは、飛び道具で攻撃してくる「人間」であることを認識させる。

なるべく複数人で追い払う

集落内で連絡を取り合ったり、1か所に集まって一斉に追払いをする。

サルにとって魅力のない集落にする

追払いと組み合わせて、田畑を防護柵で守ったり、サルを誘引する柿や栗を片付けたりするなど、集落を「サルにとって魅力のないもの」にする。

シカってどんな生き物？

食性と被害

草食性で、木の葉や草の中で、質の高いものを選んで食べていきます。特に、常緑広葉樹のアオキやカクレミノを好み、ミカンや柿などの果実も食べます。

農作物被害としては稲の食害も多く、苗の葉先を食べて成長が阻害されたり、稲穂そのものを食べることもあります。加えて踏み荒らしによる被害もおきます。



▲シカに侵入された田んぼ

シカの群れ

シカの群れ構成は様々あり、親子2頭で行動することもあるが、数十頭の群れになることもあります。成熟したオスは単独行動をすることが多いですが、まだ若いオスは群れで行動することもあります。

繁殖期になると強いオスが複数頭のメスを連れて行動することがあります。シカにはオスのみ角があり、先端は鋭くとがっています。



▲雄シカ

痕跡の見分け方

被害を及ぼしているのがシカかどうか判別がつかない場合、糞や足跡などの痕跡から見分ける方法があります。糞はウサギと間違われやすいですが、ウサギの糞は円形に近く、シカは俵型をしています。また、足跡は縦に少し細長く、蹄の間隔は狭いです。



▲シカの糞



▲シカの足跡

防護柵による被害管理

獣害対策にはいくつか手法があり、個体数を減らすための「捕獲」や、通り道や隠れ家、エサとなる誘引物を除去する「環境整備」、防護柵で作物などを囲って守る「被害管理」などがあります。ここでは防護柵の種類や、設置する際のコツ、設置後の維持管理について紹介いたします。対策したい獣や地域の状況に応じて、どのタイプを活用するか検討してみましょう。

防護柵の種類

ワイヤーメッシュ柵・金網柵

ワイヤーメッシュや金網は、イノシシやシカの侵入防止によく使用されます。電気柵と比較すると、草による漏電の心配がないので、比較的維持管理が容易ですが（草刈りをしなくて良いということではありません）、費用と施工の労力が大きいです。イノシシは隙間が空いていると、地面を掘ったり鼻でこじ開けて入ろうとするので、施工時はなるべく隙間のないように注意が必要です。



◀金網柵



ワイヤーメッシュ柵▶



▲電気柵

電気柵

電気柵は獣が触れた際に電気による痛みを感じ、「ここは危険だ」と学習させることで侵入を防止する柵です。金網柵などと比較すると費用と施工労力は小さく済みますが、漏電を防ぐために定期的な草刈りなどの維持管理が重要になります。電気柵については次ページから設置と管理のコツを紹介しています。

複合柵

イノシシやシカに加えてサルもいる地域では、ワイヤーメッシュや金網と、電気柵を組み合わせた柵も効果的です。下のワイヤーメッシュでイノシシを、上の電気柵でサルを、高さを 1.5m 以上にする事でシカの侵入も防ぎます。サルは周囲の木から飛び移って侵入することもあるので、柵の頭上に木がある場合は、枝を切るなどして対策しましょう。



▲対イノシシ・シカ・サル複合柵

電気柵の設置と管理のコツ

シカ・
イノシシ兼用

30cm

50cm

40cm

15 ~ 20cm

15 ~ 20cm

15 ~ 20cm

イノシシ用

15 ~ 20cm

15 ~ 20cm

15 ~ 20cm

クリップとワイヤーは突起を作物側ではなく動物側に向ける

できるだけワイヤーを固定しない

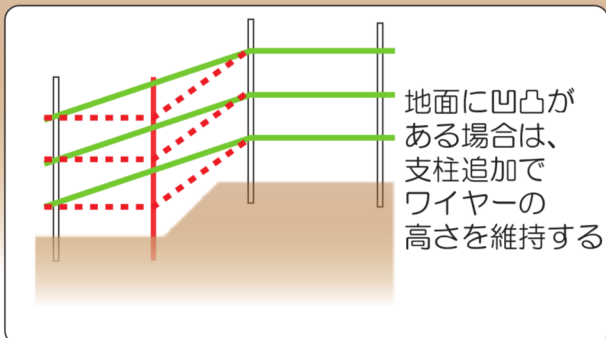
ウリ坊がいる場合15cmがおすすめ

電源からの場合
漏電遮断機をつける

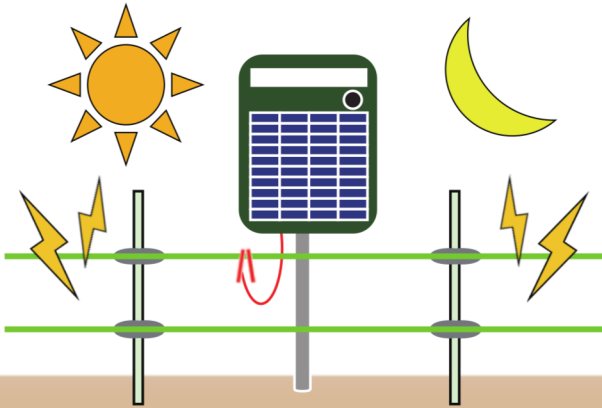
ソーラー面は南向き

漏電遮断器

アース棒はすべて埋める



24時間 365日稼働



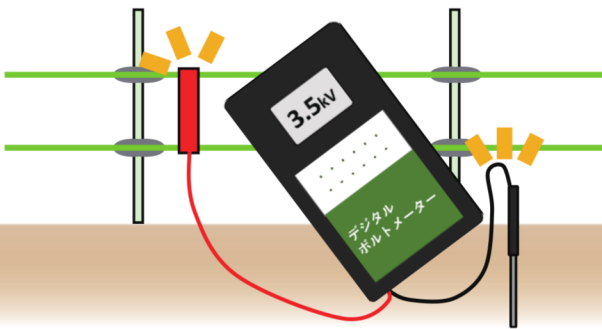
日中に動くイノシシもいるので、なるべく昼夜切り替えセンサーは使わない。

設置の周知



設置したことと「さわらない」ことの周知。危険表示板の設置は義務付けられています。

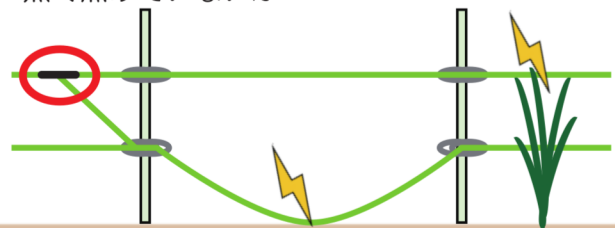
高電圧維持



3,500 ボルト (3.5kV) 以上ないと効果ができません。

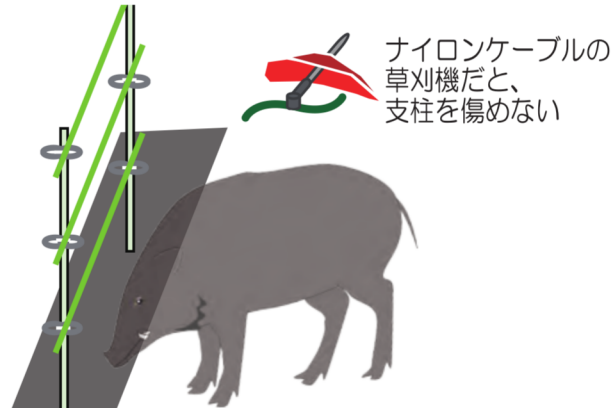
漏電などの管理

スパークして黒く焦げていないか



スパークして断線していないか、ワイヤーが草や地面に接していないか管理する。

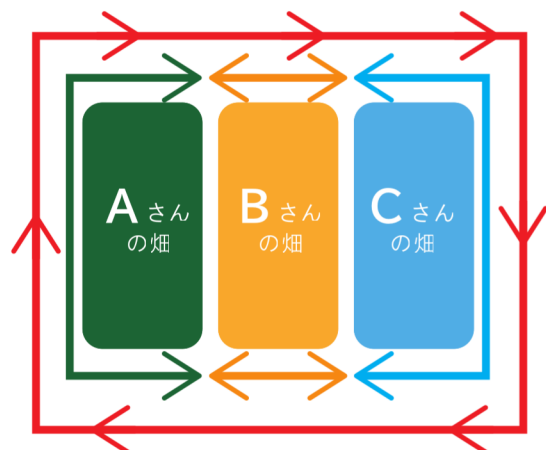
防草シート・草刈機



防草シートは外側に 20cm 以内で敷く (絶縁体です)

※砂利・コンクリート・アスファルトも絶縁体

共同設置の場合の 草刈ルール



自分の畑は自分で草刈 + 全体を定期的にチェックする

地域ぐるみで取り組む有害獣対策の事例紹介

市では各集落・地域と協力して、地元住民による有害獣対策（集落対策）を支援しています。令和2年度は寺沢・岩出・久留里地区にて被害や出没の現状を調べるため、現地調査を実施しました。令和3年度以降も集落対策を支援すべく、取組みを継続予定です。ここでは、令和元年度に行った様々な獣害対策に関する取組みの一部を紹介いたします。

集落環境診断会

※集落環境診断会とは

基本的に、講座（害獣の基本的な生態と対策）、現地確認（被害現場を見に行く）、情報共有（地図上に被害や目撃地点を書き込む）、対策検討（どのような対策をやりたいか、自分たちに何ができるか）の構成（4時間程度）で実施されます。地域住民が、自分たちの住んでいる集落の状況を改めて認識し、自分たちができる対策を考えるきっかけの場です。



講座



現地確認



情報共有

向郷、愛宕、浦田、その周辺集落の方にお集まりいただき、集落環境診断会を実施しました。実際に被害現場を見た方からは「イノシシによる被害が予想以上にひどくなっており、驚いた」といった感想もありました。対策検討の段階では活発な意見交換もあり、以下にその一部をご紹介します。



対策検討

対策検討の中で、下記の意見がでました。

意見として

「集落で対策組織を結成し、体制を整える必要がある。」

「捕獲のためのわな免許を取得する必要がある。」

「情報交換の場を増やす必要がある。」

（一部抜粋）

このような意見を踏まえ、対策をさらに支援すべく、取組みを進めました。

対策検討会（集落環境診断会のフォロー）

「集落で対策組織を作る必要がある」という意見を受け、組織作りについて検討する会を開催しました。対策組織の役員案や、個人の負担を軽減するために数名で狩猟免許を取得しに行こう、といった様々なアイデアが出されました。一部のグループでは、組織立ち上げに向けた具体的なスケジュール案も検討され、非常に有意義な検討会となりました。



箱わな・電気柵講習会



美味しいBBQの後は…



害獣と言われているイノシシですが、きちんと処理をすれば美味しいお肉になります。イノシシ肉 BBQ でイノシシの美味しさを味わい、講座で箱わなを用いた捕獲の基礎、作物を守るための電気柵の基礎を学びました。獣害対策は大変なことが多いですが、美味しいイノシシ肉で BBQ をする等して、みんなで楽しみながら行うことも継続のポイントです。

市役所の地域に対する対策支援事業（公助）



- ・ わな猟免許の取得及び更新に要する費用を助成
→ 捕獲行為を行う際は、免許が必要です。市では狩猟免許試験申請手数料及び初心者狩猟講習会受講料の一部（10,000円以内）並びに更新手数料を助成します。
- ・ 害獣から作物を守るための防護柵購入の費用を助成
→ 電気柵や金網柵、ワイヤーメッシュ柵の設置にかかる資材費を助成します（採択要件あり）。

※要件などの詳細は、市ホームページをご覧ください。

市と共に対策を進めるために、住民の方々の協力は不可欠です。野生動物による被害は農作物や農地の被害にとどまらず、車との交通事故等にまで発展し人命にかかわることもあります。**農家だけの問題ではなく、そこに住むすべての市民に被害が及ぶ危険性があります。**生活の安全を守るため、地域ぐるみでの対策を検討してみましよう。

有害獣の被害対策について

発行日：令和3年3月

発行：君津市農政課

作成：君津市農政課
合同会社 AMAC 児玉梨菜（有害獣対策アドバイザー）

連絡先：農業被害についてのお問い合わせ
君津市農政課（TEL：0439-56-1569）

農業被害以外のお問い合わせ
君津市環境衛生課（TEL：0439-56-1221）